

# 平成29年度 学校自己評価システムシート ( 県立小鹿野高等学校 )

N08

目指す学校像	総合学科高校として、生徒の「学力・人間力・思いやり・創造性」をはぐくむ、地域に愛され、期待に応える学校
--------	---

重点目標	1 基礎から発展まで確かな学力の育成 2 総合学科の特色を生かしたキャリア教育の充実と進路実現 3 規範意識の醸成と規律ある生活習慣の確立 4 生徒の人間力を高めるための地域連携と開かれた学校づくりの推進
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	3名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標				年 度 評 価 ( 1 月 2 5 日 現 在 )			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
1	<p>【現状】生徒の学力は多様化している。「学びなおし」が求められる一方、上級学校進学に向けた「学力の伸長」が必要な生徒もいる。</p> <p>【課題】 ・これまで続けてきた学力向上の取組みを、再構築すること。 ・生徒の「わかる」「できる」を実現するため授業改善をさらに進めること。</p>	学力・学ぶ力・学び続ける力の定着と向上	①学校全体での学習機会を創出する。 ②少人数等での学び直しの授業実施によって学習意欲を向上する。 ③全校一斉の漢字テスト・計算力テスト・英語テスト等を通じて基礎学力を向上する。 ④教員間の学び合いを一層深めるため授業相互見学週間を実施する。 ⑤ICTを活用した学習ツールを継続して提供し、指導方法を改善する。 ⑥上級学校等との連携を深化する。	①スキルアップトレーニングの満足度80%以上 ②少人数授業による授業の満足度85%以上 ③テストの実施年10回以上及び基礎学力が向上していると感じる生徒80%以上 ④授業相互見学週間年2回実施と授業の工夫改善に対する満足度75%以上 ⑤生徒の受講状況の増加及び満足度70%以上 ⑥参加者の満足度75%以上	学習に取り組む態度を改善し、意欲を向上させることができた。 ①スキルアップトレーニングの生徒の満足度は67%であった。 ②少人数授業は内容がよくわかると感じる生徒が全体で86%、特に上級生ほどこの傾向は高く、3年次生では90%以上である。 ③漢字テスト、英語テスト、計算力テスト計10回実施、基礎学力がつく授業であったと感じる生徒は全体で85%である。 ④授業相互見学週間を年2回設定し教員間の学び合いを深化、生徒の学習を高める授業の工夫がなされていると感じている生徒は、全体で75%である。 ⑤学習ツールの活用状況は昨年度とほぼ変わらない状況である。満足度は指標を超えることができなかった。 ⑥上級学校見学会を年2度実施、また進路ガイダンス等も各学年で複数回実施した。生徒の90%弱が進路行事に満足をしている。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>多様化する生徒の実態を踏まえ、わかる生徒もより深く理解できる授業を行うための、授業改善をさらに進めること。また、この実現のためにさまざまな研鑽の機会を活用すること。</li> <li>今年度開始した新たな取組みの内容を校内で整理共有し、生徒にとってさらに有効な取組みとすること。</li> </ul>
2	<p>【現状】生徒の現状を踏まえた特色ある取組みが成果に結びついている。一方、進路に対する興味関心が高まらない生徒も一部にいる。</p> <p>【課題】 ・「産業社会と人間」の内容をより充実させ、2年次以降に生かすこと。 ・年次毎の取組みを学校全体として蓄積する仕組みを構築すること。</p>	夢を目標に変える進路指導体制の確立	①「産業社会と人間」におけるキャリア教育を充実し、職業観を育成する。 ②2年次生のインターンシップの振り返り活動実施する。 ③進路意識を高めるための体験活動及び資格取得を奨励する。 ④マンデーレッスンの内容を充実、改善する。 ⑤キャリアガイドを見直す。 ⑥進路指導体制を充実させる。	①アンケート等による生徒・保護者の満足度85%以上 ②2年次生の意識向上 ③体験活動等の参加人数の増加及び資格取得の状況 ④参加生徒の満足度向上70%以上 ⑤キャリアガイドの内容の精選と充実 ⑥JSTの活用状況及び進路ガイダンス等の実施回数	進路決定に向けて、個々のキャリアを高め、発達段階に応じた指導を進めることができた。また3年次生の進路決定状況が改善した。 ①就労体験後、時間を守る、責任を持つて行動することの大切さを学べたと感じた生徒はそれぞれ85%以上、就労体験が必要と考える保護者、生徒の成長を感じた保護者はそれぞれ70%以上。 ②2年次生の84%が進路行事を通じて進路の意欲が高まっている。 ③系列の特色を生かし介護職員初任者研修10名修了、簿記検定資格取得者も前年比倍増、上位級合格者も増加した。 ④全校の取組みの一部として実施し、内容を精選した。参加した生徒の満足度は73%であり、意欲を高めることができた。 ⑤キャリアガイドをより活用しやすい内容に改善し、進路指導のツールとして積極的に活用した。 ⑥JSTによる生徒全員面談、進路だよりを発行など、新たな取組みを実施した。進路ガイダンスは昨年度と同数の開催であった。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>個々の興味・関心・適性・能力を適切に伸ばし、希望に応じた進路実現を保障すること。</li> <li>進路実現に不可欠な基礎学力や文章力を、1年次から高める取組みを実施すること。</li> <li>生徒自らが3年間を振り返ることができる情報蓄積について検討し早急に実施すること。</li> </ul>
3	<p>【現状】組織的な取組みで、生徒の基本的な生活習慣が身につくようにつつまらぬ。きめ細かな指導が生徒の自己肯定感醸成に結びついている。</p> <p>【課題】 ・チャイム着席の徹底を図ること。 ・清掃活動等により校内美化が行き届いていること。</p>	規律を守る主体的な態度の育成	①全教職員による登校指導、校内巡回指導、整容指導を引き続き実施する。 ②チャイムTOチャイムとなる授業を実施する。 ③校内美化を推進する。 ④主体的に挨拶をする態度を育成する。 ⑤教育相談体制を一層充実させる。	①各指導体制に対する保護者の理解と決まりを守る生徒の意識80%以上 ②時間を守る意識75%以上 ③校内美化の状況とこれに関わる意識の改善 ④自ら挨拶ができる生徒80%以上 ⑤生徒の悩みに対する対応の満足度75%以上	基本的な生活習慣をさらに定着していく必要があるが、校内の整備状況が改善したことで落ち着いた学習環境、学校生活が実現できた。 ①保護者の90%以上がきめ細かな生活指導に対して理解をしている。基本的な生活習慣が身につけていると考える生徒は70%、さらに高めていく必要がある。 ②生徒の90%以上が時間を守る意識をもって行動している。 ③校内美化について、組織的に取組み、校内美化が推進できた。 ④生徒の人間力を育むため引き続き自ら挨拶することを奨励する。現状では挨拶できる生徒が少ないとの声も一部にあるため、改善が必要である。 ⑤生徒の80%以上、保護者の90%以上が生徒の相談体制について満足している。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>実態を踏まえた生徒指導を実現するために指導体制等の見直しを行うこと。</li> <li>教育相談体制を充実させるため、学校組織を活用することはもちろん、外部機関との連携、活用を積極的に行うこと。</li> <li>挨拶等、生徒の主体的な態度をさらに育成すること。</li> </ul>
4	<p>【現状】地域との交流等により生徒の「人間力」が十分にはぐくまれている。学校の様子は地域に理解されている。</p> <p>【課題】 ・地域及び中学生向けの広報手段等を一層充実させ改善すること。 ・地域と支え合う学校の在り方をさらに考えていくこと。</p>	「地域との共助」の探求と推進	①学校と地域双方の活性化のため、「未来を拓く学校づくり推進事業」を活用する。 ②地域行事への参加、異世代間交流、学校間連携を深化する。 ③ボランティア活動等をおとして自己肯定感を醸成する。 ④HPの積極的な更新、毎月の広報紙発行、全職員による中学校訪問を実施する。	①地域に根付いていると感じる地域住民80%以上 ②生徒の参加状況及び参加した生徒の満足度 ③ボランティア等の参加状況と参加者の満足度 ④積極的に情報発信をしていると感じる生徒、保護者、地域住民がそれぞれ75%以上	地域との連携は引き続き取組んでいる。今後、地域資源を学校教育へどのように生かすかを考えていくことが必要である。 ①地域に根付いていると回答した地域住民は76%、わからないと答えた13%に対してさらに働き掛けが必要である。 ②③社会福祉協議会ボランティア、ボランティアチャレンジプロジェクト、ボランティア部の取組み、幼小連携など参加状況は昨年度とほぼ同数、また満足度については非常に高い状況である。 ④情報発信についての満足度は生徒82%、保護者90%、地域住民5%である。中学校訪問、ホームページ更新、広報紙発行等での情報発信を続けつつ、内容や方法の改善をしていく必要がある。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>開かれた学校づくりの視点から、保護者や地域との連携を継続し、諸活動を積極的に行うことで双方の協力関係を強化していくこと。</li> <li>これまでどおりの情報発信を地道に続けるとともに、必要な改善を行うこと。</li> <li>成長した生徒の姿を積極的に地域に広報すること。</li> </ul>

学校関係者評価
実施日 平成30年1月30日
学校関係者からの意見・要望・評価等
<p>新たに始めた取組みであるスキルアップトレーニングの満足度が67%と高いのは素晴らしい。学習の機会が全校生徒に対して習慣化されていることはいい傾向である。引き続き続けて欲しい。学習の機会を増やす努力はとてもいいことだが、具体的にどのように生徒が伸びているかわかると良い。集団で学びきれない部分を、個々の生徒に応じた方法で補うなど、さらに工夫を進めて欲しい。</p> <p>マンデーレッスンの満足度を高めるために、内容を充実、より生徒の要望に沿った内容にしていくことが必要ではないか。地元の企業を生徒・保護者によく理解してもらい、マッチングを図って欲しい。福祉の特色を生かした資格取得は大きな魅力である。引き続き、高齢化が進む地域を支えてもらいたい。インターンシップを充実させることに地域を挙げて取り組んでいくことが必要である。</p> <p>来校者等への挨拶をこれまで通りしっかりと取り組んでいって欲しい。校内は非常によく整理整頓され、清掃も行き届いている。生徒の安全面を配慮し下校時刻などを検討してはどうか。時間を守るなど、規範意識を高める取組みは必要である。今後も続けて欲しい。さまざまな生徒の悩みを解決する手段はこれからも必要である。</p> <p>限られた生徒ではなく、より多くの生徒がボランティア活動等に参加できると良い。町報等に学校の様子を定期的に掲載するなど、町民への理解を深める努力も必要である。広報紙で学校の様子を知ることができている。積極的な情報発信をさらに続けて欲しい。</p>